

第1回 第一次大極殿院建造物復原整備検討委員会 議事概要

(1) 国営平城宮跡歴史公園事業について

事務局より、公園事業の目的、経緯、全体概要及び平城遷都 1300 年祭に向けて実施した第一次大極殿院広場の整備内容並びに当面の施設整備の方針について説明を行い、次のような内容を確認した。

- 第一次（中央区）朝堂院の整備と第一次大極殿院及び拠点ゾーンの整備について、平行して整備を行っていく。
- 全体の事業期間については、別途発掘・調査研究がなされている地でもあるため、現在のところ未定である。
- 平城遷都 1300 年祭が終了した後も、正殿などの既存の施設は引き続き公開していく。

(2) 第一次大極殿院の復原整備について

事務局より、既存計画（公園基本計画及び文化庁策定の特別史跡平城宮跡保存整備基本構想推進計画）を基に、十分な発掘調査・研究成果を基にした復原案を整備の基本とし、利活用、管理・運営の観点から必要最小限の施設・設備を付加していくなどとした、復原整備検討に当たっての作業方針（案）を説明した。併せて、検討体制及びスケジュールについて概要を提示し、各委員から主に次のような意見があった（欠席委員の意見紹介を含む）。

- 建物復原は学術的な議論を尽くしても推測の域を出ない面があるかと思う。平城宮跡は現在、様々な遺跡の表現がなされ、それが国際的にも一定の評価を受けている状況にあり、復原整備をどこまで行うかについては改めて考えを整理しながら行っていくべき。
- 世界に誇る歴史的文化遺産をいかに後世に伝えるのかという使命と公園として積極的な利用を図るという性格の調和を図るべく、排除の論理でなく、抑制の論理とその具体化を見出すよう努めていくべき。
- 地元の人々にとっては、長期的な計画だけでなく、直近のことが重要になるのではないか。また、平城遷都 1300 年祭の後何もしなかったという評価を受けないためにも、事業が継続しているとの雰囲気を持たせるべき。
- 現在、朱雀門を入口とし、近鉄線に踏切を設け、第一次大極殿正殿と繋いでいるが、今後は線路を渡らなくてもよい位置に第一次大極殿正殿のアクセスの拠点を確保したほうがよいのではないか。
- 朱雀門から第一次大極殿正殿までの中軸上の動線を考えると、第一次（中央区）朝堂院周辺の整備は先に進めておく必要があるのではないか。
- 将来的には南からのアプローチになるとしても、平城遷都 1300 年祭後は西からのアプローチが復活することになるのではないか。
- 将来的にも南のエントランスに限定するのではなく、西や東のエントランスも想定し、どこからでもアクセスできるようにして、自由に宮跡内を回れるようにしたほうがよいのではないか。
- 作業方針（案）において、コスト縮減の観点が述べられているが、保存よりも利活用を優先するという考え方はとらないでほしい。東・西楼に人を昇らせることについても、復原案を大幅に改変して設備をつけることにならないか、十分に検討して判断してほしい。

(3) 第一次大極殿院に関する発掘調査・研究成果の現況について

奈良文化財研究所より、検出遺構、既往の研究についての報告が行われた。また、7月から始まった検討会の目的、概要及び方針等が説明され、各委員から次のような質問・意見があった。

- -2期の西面回廊北寄りの遺構は柱位置をトレースできるのか。建設直後、建設中、廃絶後のいずれの時期に地盤がずれたか分かるのか。
- -1期から -2期で遺構が大きく変わっているが、南門を造り替えた可能性はあるのか。
- 幢竿支柱の遺構がないとのことだが、延喜式によると毎年掘るものとされている。前の場所を踏襲して何回も掘った場合、その遺構が復原対象の時期にはなかったことを認識できるのか。

これらに対し、同研究所より、今後の検討会で検討を行い、本委員会で報告していくとの回答があった。